

松前町商工会経済レポート（令和2年度第3四半期）

松前町商工会

本レポートは、愛媛県や中小企業庁が公表する各種経済動向調査の概要を四半期毎に取りまとめ、報告するものです。

1. 最近の県内経済情勢

愛媛県では、各種経済指標や県内産業の動向をとりまとめ、毎月、月末をめぐりにホームページ上で「最近の県内経済情勢」として公表しています。その中から、愛媛県の経済概況と、町内主要産業別の状況を抜粋して掲載します。

（1）愛媛県の経済概況

1 経済概況

新型コロナウイルス感染症の影響により、全体として弱い動きが続いている。 前回との比較 

○個人消費 前回との比較 

一部で弱い動きがみられるが、全体としては持ち直しの動きとなっている。

【百貨店・スーパー販売額】前年同月比5.5%増加、2か月ぶりに前年を上回る。

【専門量販店販売額】ドラッグストア、ホームセンター、家電大型専門店は2か月ぶりに前年を上回る。

【コンビニエンスストア販売額】8か月連続で前年を下回る。

【新車販売台数】普通乗用車は13か月ぶり、軽乗用車は3か月ぶりに前年を上回る。

○住宅・公共工事

住宅着工は弱含んでいる。 前回との比較 

公共工事はやや弱い動きがみられる。 前回との比較 

【新設住宅着工戸数】前年同月比15.4%増加、2か月連続で前年を上回る。

【公共工事】請負金額の前年同月比は28.5%減少、2か月連続で前年を下回る。

○生産活動 前回との比較 

弱い動きが続いている。

【鉱工業生産指数】前年同月比(原指数)10.6%低下、6か月連続で前年を下回る。

金属製品、食料品、非鉄金属等の業種で前年を上回る。

繊維、輸送機械、化学等の業種で前年を下回る。

○雇用・所得

雇用情勢は、求人が求職を上回って推移しているものの、求人が減少している中、求職者が増加し続けており、新型コロナウイルス感染症が雇用に与える影響に、より一層注意する必要がある。 前回との比較 

雇用者所得は概ね横ばい圏内の動きとなっている。 前回との比較 

【有効求人倍率】1.18倍と12か月連続で前月を下回り、13か月連続で前年を下回る。

【正社員有効求人倍率】0.99倍と、前年を下回る。

【現金給与総額】名目では前年比4.1%増、3か月連続で前年を上回る。

実質でも4.6%増、3か月連続で前年を上回る。

（資料）愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和2年11月分）」より転載

<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/kennaikeizaijouseijuuitigatubun.pdf>（参照 2021-01-20）

(2) 地場産業の状況（令和2年7月～令和2年9月の状況）

業種	産業事情
自動車関連	自動車関連は、新型コロナウイルス感染症の影響により、操業度を下げているが、需要は回復傾向にある。
鉄工	中小鉄工は、新居浜地域・西条地域で、新型コロナウイルス感染症の影響により、需要が減少し、操業度を下げているが、回復の動きもみられる。鉄構は、一定の操業度を維持しているが、新型コロナウイルス感染症の先行きが見えるまでは弱含みの状況。
陶磁器	陶磁器及び瓦は、新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな催事はないが、感染症対策を実施した対面販売を実施し、持ち直しているものの、操業度を下げている。
珍味品	珍味は、一時期より持ち直しているものの、飲食店向けや観光地の土産物向けの需要が減少している。
陸運関係	陸運関係では、燃料費が下がっているものの、需要が減少。また、荷主企業の工場が大きく動いておらず、荷物が減少している。

(資料) 愛媛県産業政策課「最近の県内経済情勢（令和2年11月分）」より抜粋して掲載

<https://www.pref.ehime.jp/h30100/jousei/documents/kennaikeizaijouseijuuitigatubun.pdf>（参照 2021-01-20）

2. 中小企業景況調査報告書

「中小企業景況調査」は、中小企業施策立案の基礎資料を収集するために、(独)中小企業基盤整備機構が四半期毎に実施、中小企業庁と同機構が共同で結果を取りまとめ、公表しています。

(1) 業種別業況判断D I と天気図

「中小企業景況調査」では、業況判断D I 調査が実施されています。

D I とは、前年同期と比べた今期の状況について、「増加（上昇、好転）」の割合から「減少（低下、悪化）」の割合を差し引いた値で、景況感の相対的な広がりを示すものです。

以下の記号とD I 値の関係に基づいて、直近の調査報告データを視覚化してご紹介します。

<記号とD I 値の関係>

 快晴 ~30.1	 晴 30.0 ~10.1	 薄曇 10.0 ~▲10.0	 曇 ▲10.1 ~▲30.0	 雨 ▲30.1~
---	--	--	---	---

<業種別業況判断D I と天気図（2020年10-12月期）>

製造業	食料品  ▲21.7	繊維工業  ▲44.0	木材・木製品  ▲29.3	家具・装備品  ▲29.6	パルプ・紙・紙加工品  ▲11.6
	印刷  ▲51.1	化学  ▲9.4	窯業・土石製品  ▲20.3	鉄鋼・非鉄金属  ▲25.7	金属製品  ▲25.7
	機械器具  ▲35.5	電気・情報通信機械器具・電子部品  ▲21.8	輸送用機械器具  ▲16.6	その他の製造業  ▲29.9	
非製造業	建設業  ▲17.1	卸売業  ▲21.5	小売業  ▲31.4	宿泊業  ▲11.2	飲食業  ▲24.5
	対個人サービス業（生活関連）※1  ▲31.5	対個人サービス業（自動車整備その他）※2  ▲25.9	対事業所サービス業（運送・倉庫）※3  ▲30.9	対事業所サービス業（専門技術その他）※4  ▲19.6	情報通信・広告業  ▲24.3

※1「対個人サービス業（生活関連）」は、不動産業、洗濯・理容・美容・浴場業、その他の生活関連サービス業等の8業種。

※2「対個人サービス業（自動車整備その他）」は、自動車整備業、機械等修理業。

※3「対事業所サービス業（運送・倉庫）」は、道路旅客運送業、道路貨物運送業、倉庫業等の5業種。

※4「対事業所サービス業（専門技術その他）」は、専門サービス業、技術サービス業、廃棄物処理業等の5業種。

(資料) 中小企業庁「第162回中小企業景況調査（2020年10-12月期）」より松前町商工会作成

(2) 「調査対象企業のコメント」から見る経営上の問題点

- ・ コロナの影響による取引先の設備投資抑制の流れが、業績のマイナス要因となっていく不安がある。[卸売業 秋田]
- ・ G o T o トラベルキャンペーンに東京が対象地域とされたことによって需要は増加。感染対策との兼ね合いから満室稼働は出来ないが、それを単価で穴埋めする格好となっている。結果、四半期業況としては前年並となった。[宿泊業 群馬]
- ・ コロナ禍による市場の停滞や貿易摩擦等による原材料の確保難により作業時期の干満が激しく、安定した生産計画を立てづらい。[電気・情報通信機械器具・電子部品 東京]
- ・ コロナ禍において、国、県、市の給付金支援及び融資支援制度には助けられました。現在、コロナ対応型補助金を申請中。次は業態転換支援を期待しながらコロナ終息後の準備を進めていく。[小売業 岡山]
- ・ 巣ごもり消費の影響で持ち帰り弁当、惣菜の需要が好調である。店舗狭小の為、コロナ対策に余念がない。[飲食業 徳島]
- ・ コロナ禍の中、人材確保が難しく、工事の受注機会があっても技術者不足で断念せざるをえないことが多くなっている。先のことを見据えて判断していかななくてはならない。
[建設業 長崎]

(資料) 中小企業庁「第162回中小企業景況調査(2020年10-12月期)」より抜粋

中小企業景況調査報告書【えひめ版】

愛媛県商工会連合会

全国商工会連合会では、四半期毎に景況調査を実施しており、本報告書は県内商工会地域の景気動向を【えひめ版】として作成したものです。

調査対象期間：2020年度第3四半期（2020年10月～12月期）

調査対象企業：150企業 回答企業：150企業

（製造業：30社 建設業：20社 小売業：42社 サービス業：58社）

DI方式

DIとは、各調査項目について〔増加・上昇・好転〕の割合から〔減少・低下・悪化〕の割合を差し引いた値で〔景気動向指数〕を表しています。

*記号とDI値の関係

 快晴 ～30.1	 晴 30.0 ～10.1	 薄曇 10.0 ～▲10.0	 曇 ▲10.1 ～▲30.0	 雨 ▲30.1～
---	--	--	--	---

1. 業況判断DIと天気図（2年間の推移）

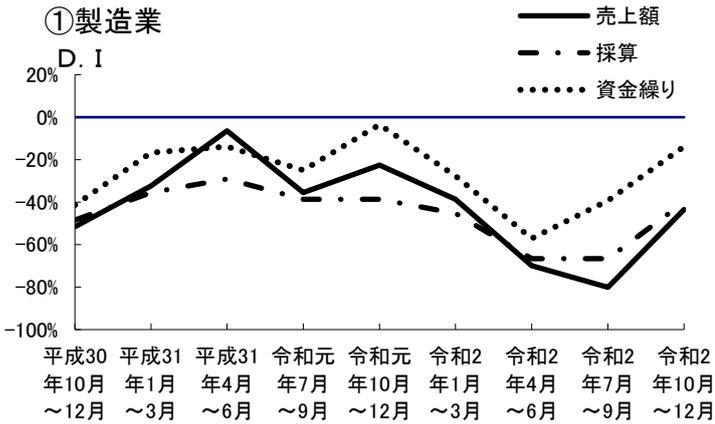
期別	業種別	①製造業		②建設業		③小売業		④サービス業		全体	
	平成30年 10～12月期	 ▲ 30.0	 15.0	 ▲ 48.6	 ▲ 16.9	 ▲ 20.1					
平成31年 1～3月期	 ▲ 36.7	 20.0	 ▲ 47.5	 ▲ 28.8	 ▲ 23.3						
平成31年 4～6月期	 ▲ 23.4	 30.0	 ▲ 45.0	 ▲ 12.1	 ▲ 12.6						
令和元年 7～9月期	 ▲ 36.7	 20.0	 ▲ 41.0	 ▲ 15.2	 ▲ 18.2						
令和元年 10～12月期	 ▲ 26.7	 10.0	 ▲ 46.2	 ▲ 25.4	 ▲ 22.1						
令和2年 1～3月期	 ▲ 43.3	 0.0	 ▲ 55.0	 ▲ 23.7	 ▲ 30.5						
令和2年 4～6月期	 ▲ 69.0	 ▲ 25.0	 ▲ 77.5	 ▲ 60.3	 ▲ 58.0						
令和2年 7～9月期	 ▲ 55.2	 ▲ 20.0	 ▲ 65.9	 ▲ 54.2	 ▲ 48.8						
令和2年 10～12月期	 ▲ 41.5	 ▲ 20.0	 ▲ 64.2	 ▲ 37.9	 ▲ 40.9						
来期見通し 1～3月期	 ▲ 34.5	 ▲ 30.0	 ▲ 53.7	 ▲ 29.3	 ▲ 36.9						

（注1）業況判断DIポイント値は、前年同期と比較して業況が「好転」と答えた企業の割合から「悪化」と答えた企業の割合を引いたもの

（注2）「全体」のポイント値は全業種の単純平均値

2.業種別景気動向

①製造業



<前期比>

売上額 : 大幅好転 (▲80.1→▲43.4 ポイント)

採算 : 好転 (▲66.6→▲40.0 ポイント)

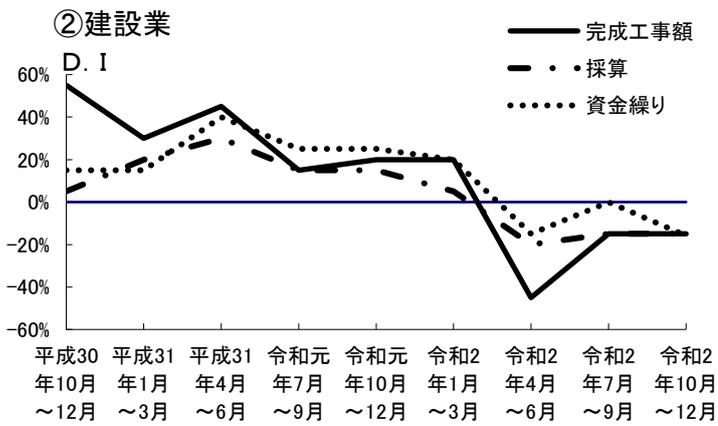
資金繰り : 好転 (▲39.3→▲13.8 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (32.0%)

2位 : 従業員の確保難 (16.0%)

②建設業



<前期比>

完成工事額 : 横ばい (▲15.0→▲15.0 ポイント)

採算 : 横ばい (▲15.0→▲15.0 ポイント)

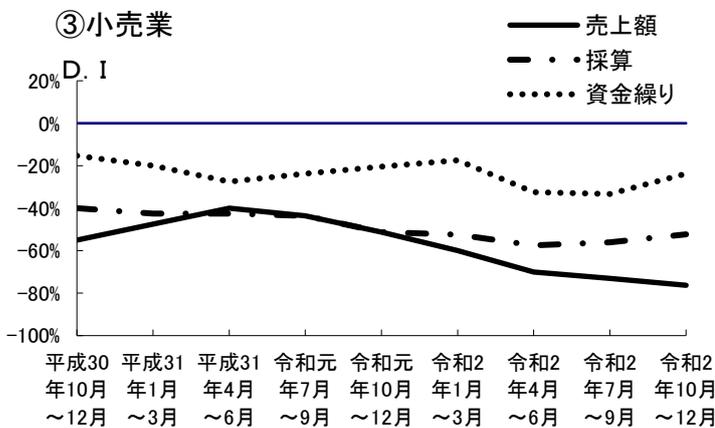
資金繰り : 悪化 (0.0→▲15.8 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 官公需要の停滞 (28.6%)

2位 : 民間需要の停滞、従業員の確保難 (21.4%)

③小売業



<前期比>

売上額 : やや悪化 (▲73.1→▲76.3 ポイント)

採算 : やや好転 (▲56.1→▲52.3 ポイント)

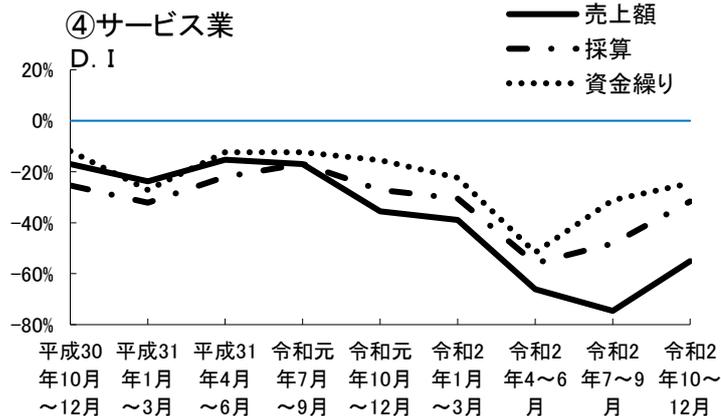
資金繰り : やや好転 (▲33.3→▲23.8 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (40.0%)

2位 : 購買力の他地域への流出 (15.0%)

④サービス業



<前期比>

売上額 : 好転 (▲74.6→▲55.1 ポイント)

採算 : 好転 (▲48.2→▲31.6 ポイント)

資金繰り : やや好転 (▲31.1→▲24.5 ポイント)

<経営上の問題点> (順位と比率)

1位 : 需要の停滞 (29.2%)

2位 : 利用者ニーズの変化 (12.5%)